

①わたしたちは、知らず知らずのうちに、「見立てる」という行為をしている。ここでいう「見立てる」とは、あるものを別のものとして見るということである。たがいに関係ない二つを結び付けるとき、そこには想像力が働いている。

②あや取りを例に考えてみよう。あや取りでは一本のひもを輪にして結び、手や指にかける。それを、一人で、ときには二、三人で、取ったりからめたりして形をつくる。そして、ひもが作り出した形に名前がつけられる。これが、見立てるということだ。あや取りで作った形と、その名前ではばれている実在するものが結びつけられたのである。

③この場合、同じ形に対してつけられる名前が、ちいきによってちがうことがある。その土地の自然や人々の生活のしかたなどによって、結び付けられるものがことなるからだ。

④日本でよく知られている写真Aの形は、ちいきごとにちがう名前をもっている。「あみ」「田んぼ」「ざる」「たたみ」「かきね」「しょうじ」「油あげ」など、日本各地で名前を集めると、約三十種類にもなる。それぞれの土地の生活と、より関わりの深いものに見立てられた結果といえる。

⑤あや取りは、世界各地で行われている。写真Bは、アラスカの西部で「かもめ」とよばれている形である。しかし、カナダでは、同じ形に対し、真ん中にあるトンネルのような部分が家の出入り口に見立てられ「ログハウス」（丸太小屋を組んでつくった家）などという名前がつけられている。

⑥見立てるという行為は、想像力に支えられている。そして、想像力は、私たちを育んでくれた自然や生活と深く関わっているのだ。